

学部・研究科名農学研究科

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名農学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づく授業科目を設定している。農学専攻は各研究室がそれぞれの専門分野にあたり、専門領域が非常に広範、多岐であるため農学を総合的に学習できる。	大学院発表会および専攻のポスター発表会を実施している。	最新の内容を盛り込んだ授業を実施するとともに、これに沿ったシラバスとするように常に見直しを実施している。基準を明確にして成績を評価している。学位授与についても規定に従って実施している。	科目評価では成績により、演習科目ではプレゼンテーションを中心に発表内容の総合的に評価している。	教育課程及びその内容、方法について、専攻内会議で随時問題点をチェックし、専攻内で情報共有を図り、常に改善・向上に努めている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・作物学、園芸学、植物育種学、植物病理学、農業環境学およびポストハーベス ト学など多様かつ専門的な科目が開講されている。	【長所】 ・遠隔でも対面でも専攻の特徴を伝えるために、特にプレゼンテーション能力の向上に努めている。	【長所】 ・特論、演習科目により各自の専門性を、選択科目でより広い農学関連の知識を習得できる。	【長所】 ・計画発表や中間発表などを通して学習状況、研究の進行状況を随時把握できている。	【長所】 ・幅広い学問分野で様々な学会に教員が所属しているため、農学に関する総合的な情報が共有されている。
	【特色】 ・各分野の基礎的な内容である特論科目に加え、演習科目でより深く、応用的な内容が提供されている。	【特色】 ・各専門の学会で活躍する院生が一堂に会し、発表・議論できる場となっている。	【特色】 ・演習でのプレゼンテーションを通じて、思考力、問題解決能力の向上を図っている。	【特色】 ・専攻内の広い分野に属する教員がそれぞれの学位論文の進行状況を相互にチェックしている。	【特色】 ・農学に関する総合的な情報が共有できしており、広い視野による考え方で議論ができています。
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料基 1（3 ポリシー）	資料基 2（大学院研究発表会）			

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入試情報の周知を徹底して、専門性を重視した入学者選抜を実施している。さらに、進学のパワーを高めるためにⅠ、Ⅱ期入試とともに推薦入試も実施している。	年3回（学内推薦、Ⅰ期およびⅡ期）の入試において、その状況について教員間で議論を重ね、適切性について常に取り組んでいる。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究室配属がきまる学部3年次から大学院進学に関する情報を周知して、進学意識の向上を図り、卒業論文から高いレベル研究を目指している。	【長所】 ・学内推薦により、意欲のある学生が早期に進学を決定できる。
	【特色】 ・学部生の早い段階から、より高度な専門教育で進学をして研究を志す人材を発掘することに努めている。	【特色】 ・早期に進学が決定することで、学部から学会発表等を目指して着実に研究に取り組むことができる。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・進学者の減少。	【問題点】 ・学部特待生の学内推薦の利用が少ない。
	【課題】 ・定員の充足と優秀な大学院生確保の両立。	【課題】 ・学部成績上位者の進学の促進。
根拠資料名	資料基3（2023年度博士前期入試問題）	資料基4（2025年度大学院学生募集要項）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専門性はもちろん、持続的な研究、教育、研究室運営および専攻運営できるよう適切な人員配置を実施、今後の計画を示している。	大学院指導教授は適切に配置できている。一方、若手や中堅教員が担う授業担当教員と指導補助教員が不足している。	複数指導体制に向けて、昇格人事を進めており、同一専門分野における複数教員体制としている。	若手教員への積極的な留学の推奨とともに、それに伴う留学中の授業代行などの支援で資質の向上を図っている。さらに、科研費はもちろん、学内外の競争的研究資金の獲得に向けて、教員間での情報交換を常に行っている。加えて、最先端研究機器の組織的な導入に努めている。	週一回の学科会議に専攻内会議も組み込んでいることで、大学院担当教員以外にも大学院に関する情報の共有ができています。このため、組織の適切性について定期的に点検・評価が可能となっている。さらに、点検・評価の結果を基にした改善・向上に向けて取り組みを迅速に実施できている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし。	【長所】 ・なし。	【長所】 ・なし。	【長所】 ・国際感覚豊富な教員が育成できている。	【長所】 ・学科と専攻との統一的な運営。
	【特色】 ・なし。	【特色】 ・教員歴の長い経験豊富な指導教員を配置している。	【特色】 ・なし。	【特色】 ・最先端研究機器の導入により、専攻内での連携も向上し、研究の幅と深みが増している。	【特色】 ・点検・評価の結果を基にした改善・向上に向けた取り組みの迅速な実施。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・大学院教員の不足。	【問題点】 ・大学院教員の不足。	【問題点】 ・指導体制は整備されているものの、授業担当教員や指導補助教員は不足している。	【問題点】 ・留学中の研究室等の負担軽減。	【問題点】 ・なし。
	【課題】 ・多くの学科教員を大学院授業担当教員や指導補教員とすることを目指す。	【課題】 ・若手教員の授業担当教員や指導補助教員化と中堅教員の指導教員化による人材不足の解消。	【課題】 ・指導補助教員や授業担当教員の増員。	【課題】 ・代替教員の確保。	【課題】 ・なし。
根拠資料名					

学部・研究科名農学

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名動物科学

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学院に対して令和四年度より開講科目の改訂編成を行っている	・専攻全体での研究進捗プレゼンテーションを設定し、教員が院生研究の進展を把握する体制を作っている。 ・特別講義において積極的に外部講師を招喚し先端研究を学ばせている。学会発表・論文執筆を奨励し科目として提供している。	・学生に過大な負担とならないよう配慮しつつレポートを課すなど各教員が成績評価を適切に実施している。学位取得のための口頭発表審査会は専攻内の指導教授全員が出席して対面で行い、学位授与を決定した。	・大学院に進学した時点で、専攻説明会において学位授与方針を説明し、年 2 回の畜専攻全体での研究進捗プレゼンテーションにより、担当指導教授以外にも複数の専攻内の教員で学習成果を把握、評価している。	・・授業担当者は各自、大学で実施している授業評価アンケートの結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専修科目に関する最新知識を提供できる。	【長所】 ・専攻教員全体で大学院生へのサポートが可能である。また、研究室外学生との交流により、新たな発想を得る機会となっている。	【長所】 特になし	【長所】 特になし	【長所】 ・定期的な点検・評価
	【特色】 ・特別講義を配し、外部講師による動物科学の専修分野を幅広く俯瞰した最新の専門知識の習得が可能になった	【特色】 ・教員からのアドバイスのみならず、大学院生同士のディスカッションにより、切磋琢磨できる。	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 ・新カリキュラムは専修研究室の基幹科目を中心としており、各専修を深く学ぶことが出来る。
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・科目数が多く、学生それぞれが実験を行う時間が無くなっている	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・学生の研究活動に応じた運用が昼用	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	大学院シラバス、大学院学生便覧、履修モデル、特別講義実施記録、専攻 3 ポリシー	専攻会議記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録 カリキュラム	大学院シラバス、学位論文審査基準、口頭発表審査会実施記録	専攻説明会実施記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録、専攻 3 ポリシー	授業評価アンケート、授業評価アンケートに対する改善計画書

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学院入試説明会の際、大学院進学希望学生全員に対し、アドミッション・ポリシーおよび入試制度について説明をしている。 ・入試の面接、試験の得点や順位などの確認は、指導教授全員で行い、公正に実施している。 ・	・Ⅰ期およびⅡ期入試採点時には指導教授相互に情報公開とディスカッションを行っている。 ・定員を超える修士学生数を確保できている。 ・
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 TOEIC を導入し英語の試験の標準化を行った。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・	【特色】 ・各専修で指導教授が学部学生の適性を見極めたうえで積極的に進学を促している。博士前期についてはⅠ期入試のみで定員を超える学生数を確保している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 研究室ごとに十分な進学者を確保するような個別の努力が必要である。	【問題点】 ・進学者の数が研究室ごとに大きなばらつきがある。
	【課題】 特になし	【課題】 ・専修による進学希望者数の偏りを軽減する
根拠資料名	専攻会議で記録、専攻 3 ポリシー、大学院入試説明会の実施記録（参加者数等含む）、大学院入試志願者数表	専攻会議記録、研究進捗プレゼンテーション実施記録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・各専門分野に適切な人員を配するとともに、若手教員が大学院授業担当者に昇格できるよう、各指導教授および若手教員自身に周知している。 ・大学の理念・目的、研究科の教員組織の編成に基づき、専攻の教員組織の編成方針を作成し、本学のホームページ上で公開している。	・大学院授業担当者を増やすことで、大学院教育研究活動の更なる向上を目指している。	・専攻の各指導教授に対し、昇格申請の案内を実施している。 公募に当たっては専攻内で将来構想を提示して、採用条件を定めている	・年に 2 回の頻度で、専攻全大学院生の研究進捗プレゼンテーションを行っている。 外部資金の獲得や学術振興会の特別研究員の申請などのアナウンスや講座を行っている。	適時、運営上の問題点があれば、大学側に改善を申し入れる機会がある。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・各分野に専門性の高い教員を組織できる。	【長所】 ・同一分野に職階の異なる複数教員を配置できる。	【長所】 特になし	【長所】 ・特になし。	【長所】 ・特になし
	【特色】 特になし	【特色】 ・数十年単位で同一分野の研究活動を継続することができる。	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・専修分野ごとに指導教員数にばらつきが生じている。	【問題点】 ・	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・大学院生の教育の客観的な指標を用いて的確に助言できる態勢が求められる。	【問題点】 ・特になし。
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・	【課題】 ・特になし。	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	専攻の教員編成方針、学科（専攻）教員配置表一年齢、職階を示すもの	学科（専攻）教員配置表一年齢、職階を示すもの	教務職員資格審査基準及び関連書類	研究進捗プレゼンテーションの実施記録	専攻会議記録、学科（専攻）教員配置表一年齢、職階を示すもの

学部・研究科名 農学研究科

学部長・研究科委員長名 馬場 正

学科名・専攻名 生物資源開発学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、専攻教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。また、通常の講義以外にも生物多様性に関わる特別講義を実施している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。	指導教員に加えて教員同士でも情報を共有することで適切に把握している。	研究室横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 オムニバス形式の講義により専攻教員の講義に広く接する機会を設けている。	【長所】 学生個々の研究や研究室活動を評価するよう努めている。	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 専攻内会議を定期的開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名			3_2. 2023 年度・資源学科・学科教授会議事録		3_2. 2023 年度・資源学科・学科教授会議事録 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	「生物多様性の保全と利活用の探究」を目指す本専攻は、野生動植物から昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	学生受入れに際しては、事前に志望学生と指導予定教員との間で十分な話し合いを行い、また教員同士情報を共有することで対応している。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学系のみならず理学（生物学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な専攻であること。	【長所】 ・十分な話し合いを行うことでミスマッチを予防している。
	【特色】 ・「生物多様性の保全と利活用の探究」を目指す本専攻は、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っている。	【特色】 ・あらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による専攻の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	3_1. 2023 年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録	3_1. 2023 年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	専攻新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	博士課程設置を見据えた昇任等を適切に行なった。新たに大学院授業担当者を申請し、教育の充実をはかった。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議・専攻会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実験系とフィールド系教員のバランスを意識している。	【長所】 ・実験系とフィールド系教員のバランスを意識している。	【長所】 ・大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 ・調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・「生物多様性の保全と利活用の探究」を目指す本専攻は、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っている。	【特色】 ・農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	3_1. 2023 年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科	3_1. 2023 年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科	3_2. 2023 年度・資源学科・学科教授会議事録 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録	3_3. 2023 年度・資源学科・学科会議議事録	3_4. 2023 年度・資源学科・教員の学内業務履歴

学部・研究科名 農学研究科

学部長・研究科委員長名 馬場 正

学科名・専攻名 デザイン学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科専攻設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、専攻教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。	指導教員に加えて教員同士でも情報を共有することで適切に把握している。	研究室横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし	【長所】 オムニバス形式の講義により専攻教員の講義に広く接する機会を設けている。	【長所】 学生の研究や研究室活動を評価するよう努めている。	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 専攻内会議を定期的開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	・学生便覧	・発表会プログラム ・シラバス	・学生便覧 ・学科専攻会議 議事録	・学生便覧	・学科専攻会議 議事録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	学生受入れに際しては、事前に志望学生と指導予定教員との間で十分な話し合いを行い、また教員同士情報を共有することで対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学科の特色でもある理系のみならず文系の学生を獲得するために、文科系の入試科目を設定している。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・大学院案内 ・学科専攻会議 議事録	・学科専攻会議 議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	研究科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	研究科の安定に向け、昇任を適切に行っている。	学科専攻会議等で意見交換・検討を行っている。	定期的に点検・評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 各研究室 3 名の教員を配置し、円滑で細やかな教育研究活動を行うことができる。	【長所】 学科および研究室教員の専門性、年齢構成を考慮した人事を行っている。	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 専攻の特色である幅広い「農」の領域をカバーする教員編成となっている。	【特色】 特になし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・学科専攻会議 議事録	・学科専攻会議 議事録	・学科専攻会議 議事録	・学科専攻会議 議事録	・学科専攻会議 議事録

学部・研究科名農学研究科

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名農学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	充実した研究活動を目指した学部との連携		
実行サイクル	2 年サイクル（令和 5 年～令和 6 年度）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	大学院授業科目について、学部での関連授業科目との連続性を意識した授業を実施する。大学院研究発表会や修士論文発表会への学部生の参加を積極的に促す。 4 月：学内推薦入試説明会 6 月：学内推薦入試、一般入試説明会 7 月：研究室紹介 12 月：大学院研究発表会 2 月：学科卒業論文発表会、修士論文発表会		
目標達成を測定する指標	大学院進学者数		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	学部の授業においても最新の話題を常に取り込み、大学院への進学を促す努力をしている。さらに、推薦入試も実施して進学への門戸をできる限り広くしている。しかしながら、進学者の低迷が続いている。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・進学者の低迷	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・進学者増加に向けた一層の取り組み	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	資料包 1（2025 年度大学院学生募集要項）		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	博士前期課程（修士）大学院生の学会発表の促進		
実行サイクル	____ 2 ____ 年サイクル（令和 5 年～6 年度）	_____ 年サイクル（令和 ____ 年～ ____ 年）	_____ 年サイクル（令和 ____ 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	学部からの連続性を活かして、学会等での研究成果の発表をできる限り早期にするとともに、後半にも発表することで発表回数の増加を目指す。 通年：各種学会等での発表 後期：大学院研究発表会、修士論文発表会、プレゼンテーション法開講		
目標達成を測定する指標	学会等での発表回数		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	開講科目である「プレゼンテーション法」を基礎に、質の高い修士論文発表会を目指すとともに、これらの内容を園芸学会春季大会、日本植物病理学会および東南アジア国際農学会（ISSAAS）等で大学院生が口頭またはポスター発表した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・発表者は経験が積めるとともに、未発表者が発表を目指す刺激となる。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	資料包 2（令和 6 年度日本植物病理学会大会講演要旨）		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	安定した入学者の確保	専門性を活かした就職	
実行サイクル	____ 4 ____ 年サイクル（令和 5 年～8 年度）	____ 2 ____ 年サイクル（令和 5 年～6 年度）	_____ 年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	入試はⅠ期およびⅡ期に加えて推薦も実施する。さらに、説明会や個別相談を積極的に行い個々の入試の枠にはとらわれず、全体を通して進学者の確保を目指す。 通年：進学相談 5 月：学内推薦入試説明会 6 月：Ⅰ期入試説明会 12 月；大学院研究発表会、Ⅱ期入試説明会 2 月：修士論文発表会	大学院で培った専門性を活かせる就職先への就職できるよう積極的に支援する。前期課程 1 年の前半でのインターンシップへの参加の促進、より丁寧な就職相談、キャリアセンターとの連携、公務員採用試験対策講座の実施など、早い段階からきめ細かい支援を実施する。 通年：インターシップ 10 月：就職体験座談会 2 月：公務員採用試験対策講座	
目標達成を測定する指標	入学者数	就職率と就職先	
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学内推薦入試を実施するなどして入学者確保に努めた。大学院志願者は微増したものの博士前期課程は定員 14 名に対して入学者が 11 名、博士後期課程は入学者がなかった。	農業関連企業、県庁、博物館および就農など大学院で学んだ専門性を活かせる就職が概ねできている。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学内推薦入試で早期に進学が決定して研究に打ち込める。	【長所】 ・卒業生のネットワークを活かせる。	【長所】 ・
	【特色】 ・内部進学することで研究の継続性が保たれる。	【特色】 ・他大学院にはない農業を中心としたネットワークがある。	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・入学者が定員を下回っている。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・
	【課題】 ・志願者を増やして入学者数を確保する。	【課題】 ・なし	【課題】 ・
根拠資料名	資料包 1（2025 年度大学院学生募集要項）		

学部・研究科名 農学研究科

学部長・研究科委員長名 馬場 正

学科名・専攻名 動物科学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学・大学院連携教育の検討	大学院生と専攻教員の相互コミュニケーションの構築	
実行サイクル	___ 3 ___ 年サイクル（令和 5 年～ 7 年）	___ 3 ___ 年サイクル（令和 5 年～ 7 年）	_____ 年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	・7月の大学院Ⅰ期入試合格者に対する後学期大学院講義の受講を検討する ・後学期開始の大学院特別講義において、6回予定している外部講師講演を公開講座とし、学部学生の出席を奨励する	・前期、後期各1回の頻度で、動物科学専攻全体での研究進捗プレゼンテーションの機会を設定する。専攻の全教員が対面で大学院生の研究の進展および生活状況を把握する。 令和4年7月 前期大学院研究進捗発表会 令和5年1月 後期大学院研究進捗発表会	
目標達成を測定する指標	・学部学生の大学院講義聴講者数	・動物科学専攻所属の大学院生および教員参加数（目標：30名） ・学部学生参加数（目標：12名）	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各専修で特別講義を行い他研究室・大学や研究機関の研究に触れることができた。	進捗状況を全指導教員で把握すると共に適格な指導を行っている。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】前期進学予定者の修学意欲を高めることが出来る ・	【長所】幅広い対象者へのプレゼンを通したコミュニケーション能力の涵養 ・	【長所】 ・
	【特色】新しい手法や知見に触れることが出来る ・	【特色】他の学生のプレゼンも聴講できる。 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】講義の設定時間がランダムになり、生物系の卒論・修論は実験時間が長いため調整が難しい ・	【問題点】学部生などの参加を促す必要がある ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	特別講義実施記録	公開発表会開催記録	

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院生の研究レベル高位平準化	研究会、学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	____ 3 ____ 年サイクル（令和 5 年～ 7 年）	____ 3 ____ 年サイクル（令和 5 年～ 7 年）	____ 3 ____ 年サイクル（令和 5 年～ 7 年）
実施 スケジュール	・半年に1回の頻度で、専攻全体での研究進捗発表会の機会を設定、また修士論文、博士論文発表会への発表者以外の参加を促す。 令和4年7月 前期大学院研究進捗発表会 令和5年1月 後期大学院研究進捗発表会 令和4年12月～5年2月 修士論文発表会、同博士論文発表会	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測定する指標	・畜産学専攻所属の大学院生および教員参加数（目標：30名） ・学部学生参加数（目標：12名）	<u>学会参加・発表人数</u>	<u>投稿論文数</u>
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	公開で発表会を開催しているが60人以上の参加があった。	国内・国際学会への積極的な参加があった。	前期・後期の学生を通して筆頭著者としての国際論文への掲載が 沢山ある。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】進学を考えている学部学生も参加するため早期に修学意欲が高まる・	【長所】多くの研究に触れることが出来る	【長所】研究成果の公表と、英語の執筆能力などを育成できる ・
	【特色】進学を考えている学部学生も参加する ・	【特色】準備や発表を介したコミュニケーションとプレゼン能力の育成 ・	【特色】研究成果の公表と、英語の執筆能力などを育成できる ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】学部生や在学生院生達に大学院での研究に触れる機会をさらに増やす工夫が必要 ・	【問題点】院生全体に学会への参加を促す取り組みが必要である ・	【問題点】論文執筆まで届かない前期学生も多い ・
	【課題】 ・	【課題】学会への参加を科目化しているためさらに履修を促す ・	【課題】研究の量と質を向上させる取り組みをする。 ・
根拠資料名	実施記録	学会抄録など	PubMed 掲載

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院博士前期課程進学率の向上を目指した学部学生への早期のアプローチ	博士後期課程進学者の獲得	
実行サイクル	____4____年サイクル（令和 4 年～ 7 年）	____3____年サイクル（令和 5 年～ 7 年）	_____年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	4月：進路を含めた個別インタビュー 7月：卒業論文テーマの絞り込み 9月：実験に関するプロGRESSレポート提出	・動物科学専攻博士後期課程に進学する大学院生を積極的に獲得する。 特に、各研究室における活動で日常的に専攻教員が大学院生と密なコミュニケーションを取り、博士後期課程の情報などを積極的に提供する。 ・令和4年6月および12月 大学院進学説明会実施	
目標達成を測定する指標	I期入試による大学院進学者数 （目標：大学院入学定員数の充足）	博士後期課程進学者数	
自己評価 （☑を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	I期の進学者で定員を充足した	一定数の進学者を獲得した	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】学部学生に大学院への進学を促す ・	【長所】研究の質の向上 ・	【長所】 ・
	【特色】早期から大学院進学を視野に入れた計画をたてられる ・	【特色】総合的な研究の質の向上 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】専修ごとに進学率が大きく異なる ・	【問題点】後期への進学を視野に入れない前期課程の学生も多い ・	【問題点】 ・
	【課題】各指導教員にて研究と教育に取り組む ・	【課題】博士取得者の就職先を含め、研究者としての人生設計を考える機会を増やす ・	【課題】 ・
根拠資料名	進学実績		

学部・研究科名農学研究科

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名生物資源開発学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学部との教育連携方法の検討		
実行サイクル	5 年サイクル（令和4年～令和9年）	_____年サイクル（ 年～ 年）	_____年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	大学院授業科目について、学部での関連授業科目との連続性を意識した授業内容の実施を検討するとともに、シラバスにおいてそのことを具体的に表現した記述を行う。		
目標達成を測定する指標	毎年のシラバスの改定に際して順次学部と授業との連続性を意識した表記を心掛ける。		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	授業の際、各担当教員が学部での内容について振り返りながら、より発展的な授業を実施した。また、新たに大学院授業担当者を申請し、教育の充実をはかった。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 理解度が深まる。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 研究の発展する過程を、よりリアルに感じてもらえる。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 特になし。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	3_2. 2023 年度・資源学科・学科教授会議事録 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	専攻の専門分野に関する研究の推進とその発信力 の養成 修士課程進学者の増加		
実行サイクル	5 年サイクル（令和4年～令和9年）	_____年サイクル（ 年～ 年）	_____年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	高い専門性のある研究の推進とその発信 社会人経験者も視野に入れた修士課程の進学者を増加させる。		
目標達成を測 定する指標	研究成果や研究内容の学内外、専門・一般を問わない発表回数		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	2022 年度の修士課程入学者は 14 名であったが、2023 年度は 23 名と大幅に増加した。修士 1 年生は専攻中間報告会を修士 2 年生は修士論文発表会をそれぞれ行い、研究内容の発信を行った。修士 2 年生は学会発表等の機会において積極的に研究内容を発表した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 修士課程在籍学生が全研究室にいて、学部生も研究ならびに大学院進学 の刺激を受ける。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 分野が偏ることなく資源専攻 5 研究室全てに大学院生が在籍してい る。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた	【問題点】 特になし。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
問題点及び次 年度への課題	【課題】 特になし。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	2023 年度生物資源開発学専攻中間報告会要旨 2023 年度生物資源開発学専攻修士論文発表要旨 2022 年度・2023 年度・資源専攻修士課程入学者名簿 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	連続して入学定員以上の入学者を確保する。		
実行サイクル	__3__ 年サイクル（令和4～7年）	_____ 年サイクル（ 年～ 年）	_____ 年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	入学定員枠以上の入学者を獲得できたかどうかを検証する。		
目標達成を測 定する指標	個々の実施年度における入学者数が少なくとも3年間連続して入学 定員以上となること。		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	2022 年度の修士課程入学者は 14 名であったが、2023 年度は 23 名 と大幅に増加した。2024 年の入学者は 10 名で、入学者は減少したも のの定員以上となり、また、受験者はⅠ期Ⅱ期合わせて 17 名であり、 定員以上の受験生を維持した。また、博士課程にも 1 名の入学者があ った。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 修士課程進学者が定員を維持した、学部生も研究ならびに大学院進学 の刺激を受ける。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 分野が偏ることなく資源専攻 5 研究室全てに在籍している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 資源専攻の定員は 10 名のため、今後も進学者が多い場合は定員の増 加も検討する必要がある。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	2022 年度・2023 年度・資源専攻修士課程入学者名簿 2023 年度・大学院生物資源開発学専攻会議 議事録		

学部・研究科名農学研究科

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名デザイン農学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	修士課程の完成年度であることから、各授業科目を確実に実施し、事後点検を行い改善点などを明らかにする。
実行サイクル	__1__ 年サイクル（令和5年～令和6年）
実施 スケジュール	・ 4月～7月：前期授業の実施 ・ 9月～1月：後期授業の実施 ・ 1月～2月：事後点検を反映させた次年度授業計画
目標達成を測定する指標	・ 出席状況 ・ 受講院生へのアンケート結果
自己評価 (☒ を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	前期・後期ともに予定通りに授業を実施し、院生の出席を得た。 受講院生へのアンケート結果を参考に、次年度の授業を計画した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ 特になし
	【特色】 ・ 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・ 特になし
	【課題】 ・ 特になし
根拠資料名	・ 授業実施報告書 ・ 教育評価の結果を踏まえた課題の抽出

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	学会および講演会への参加を推奨するとともに、各院生の研究計画、進捗状況および成果について発表する機会を設定する。
実行サイクル	__ 1 __ 年サイクル（令和5年～令和6年）
実施 スケジュール	・適宜：学会大会・講演会等の情報を提供 ・年度初め：研究計画 ・適宜：研究の進捗状況および成果の発表
目標達成を測定する指標	・学会等への参加状況 ・研究計画、進捗状況および成果の評価
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	院生へ学会大会の情報を周知し、参加を促した。(学会参加 18 件、発表 13 件) 研究計画および成果についての発表会を開催した。(年 2 回)
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・学会大会要旨 ・研究計画/成果発表ポスター

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	各院生の将来目標・希望に添った進路指導体制を構築する。
実行サイクル	2 年サイクル（令和4年～令和6年）
実施 スケジュール	・入学後：進路希望調査 ・適宜：希望に応じた企業等の就職先紹介と支援 （博士後期課程進学希望者へは、長期的な研究計画と就職支援）
目標達成を測定する指標	・進路希望調査結果 ・進路指導状況 ・就職活動状況
自己評価 （☑を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	博士後期課程進学希望者には長期的な研究計画と就職支援を説明し、進学者を輩出することができた。 修了した学生全員は、就職および進学をすることができた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・
	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・
	【課題】 ・
根拠資料名	・進路調査表 ・進路状況一覧